

平成 30 年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

家 庭

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 30 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊗ ⊗ ⊗ ⊗

問 1 次の文は、「小学校学習指導要領」(平成 20 年 3 月)の「第 2 章 第 8 節 家庭 第 1 目標」である。文中の ① ~ ④ に入る正しい語句の組合せを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

衣食住などに関する実践的・体験的な ① を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び ② を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする ③ をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な ④ を育てる。

	①	②	③	④
ア	活 動	技 術	態 度	能 力
イ	学 習	技 能	態 度	能 力
ウ	活 動	技 能	心 情	態 度
エ	学 習	技 術	心 情	態 度

問 2 次の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 1 章 総説 2 家庭科改訂の趣旨」について述べたものである。「(i)改善の基本方針」の記述として正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し、目標や内容の改善を図る。

イ 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。

ウ 持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。

エ 情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術・技能を活用する能力の育成を目指す指導を充実する。

問 3 次の文は、「小学校学習指導要領」(平成 20 年 3 月)の「第 2 章 第 8 節 家庭 第 2 各学年の目標及び内容」について述べたものである。内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「家庭生活と家族」で指導する事項として、(1)「自分の成長と家族」、(2)「家庭の仕事と分担」、(3)「家族や近隣の人々とのかかわり」の 3 項目が示されている。
- イ 「日常の食事と調理の基礎」で指導する事項として、(1)「食事の役割」、(2)「栄養を考えた食事」、(3)「簡単な調理」の 3 項目が示されている。
- ウ 「快適な衣服と住まい」で指導する事項として、(1)「衣服の着用と手入れ」、(2)「住まい方への関心」、(3)「生活に役立つ物の製作」の 3 項目が示されている。
- エ 「身近な消費生活と環境」で指導する事項として、(1)「物や金銭の使い方と買物」、(2)「環境に配慮した生活の工夫」の 2 項目が示されている。

問 4 次の①～④の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 第 3 節 家庭科の内容 A 家庭生活と家族」における「(3)イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。」に関する記述である。①～④の文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 家庭生活と近隣の人々とのかかわりについて考えることを通して、家庭生活が、家族の協力だけではなく、近隣の人々とのかかわりで成り立っていることやかかわりの大切さが分かるようにする。
- ② 地域活動に参加して高齢者と触れ合ったり、家族とのコミュニケーションを深めるための方法を工夫して計画し実践したりすることなどが考えられる。
- ③ 生活する上で近隣の人々との調和が大切であることに気付き、近隣の人々とのかかわりを考えて自分の家庭生活をどのように工夫したらよいかを考えることができるようにする。
- ④ 家族や近隣の人々が気持ちよく生活できるように、人のかかわりを大切にしたり、生活環境に配慮した方法を工夫したりして実践するなどの活動が考えられる。

	①	②	③	④
ア	○	×	○	○
イ	○	○	×	×
ウ	×	×	×	○
エ	×	○	○	×

問 5 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 第 3 節 家庭科の内容 B 日常の食事と調理の基礎」における「(内容の取扱い) ウ 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。」に関する記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学校においては、家庭科などの食に関する指導を中核として、学校の教育活動全体で一貫した取組を推進することが大切である。
- イ 日常の食事を大切に作る心、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方、食品の品質及び安全性等に関する基礎的な知識、調理の基礎的・基本的な知識及び技能などを総合的にはぐくむ観点から推進することが必要である。
- ウ 食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力、望ましい食習慣の形成、地域の産物、食文化の理解、基礎的・基本的な調理の知識と技術などを総合的にはぐくむという観点から推進することが必要である。
- エ 家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎が培われるように配慮し、食育の充実に資するようすることが大切である。

問 6 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 第 3 節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい」における「(3)ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。」に関する記述として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 製作に使用するミシンについては、使用前の点検、使用後の手入れとしまい方、簡単な調整方法などを指導する。
- イ 針類、はさみ類、アイロン、ミシンなどの用具は危険を伴うので、安全で適切な取扱い方を製作を通して身に付けるようにする。
- ウ アイロンの取扱いについては、布に応じた使い方ができるようにするとともに、火傷などに留意し、使用中、使用後の安全指導の徹底を図る。
- エ 整備や手入れを適切に行うことが技能の習得を補完するとともに、実生活でも役立つことに気付くよう配慮する。

問 7 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 第 3 節 家庭科の内容 D 身近な消費生活と環境」における「(1)イ 身近な物の選び方, 買い方を考え, 適切に購入できること。」に関する記述として正しいものを, 次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 販売方法については, 店舗販売と無店舗販売の特徴を知り, それぞれの利点や問題点について具体的な事例を通して考え, 適切な方法で購入できるようにする。

イ 購入時の支払いについては, 二者間の契約を中心に取り上げ, 即時払い・前払い・後払いのそれぞれの特徴について理解できるようにする。

ウ 生活に必要な物資・サービスの選択, 購入に当たっては, 多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し, 物資・サービスの適切な選択ができるようにする。

エ 購入の仕方だけではなく, 購入した後どのように活用したか, 使ってみてどうだったかを振り返ることにより, 次の購入に生かせるようにする。

問 8 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い」における「1 指導計画作成上の配慮事項 (4) 道徳との関連」の記述として誤っているものを, 次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 家庭生活を大切にすることをはぐくむことは, 家族を敬愛し, 楽しい家庭をつくり, 家族の役に立つことをしようとすることにつながるものである。

イ 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を習得することは, 望ましい生活習慣を身に付けるとともに, 勤労の尊さや意義を理解することにつながるものである。

ウ 家庭科で扱った内容や教材の中で適切なものを, 道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。

エ 家庭科の年間指導計画の作成などに際して, 道徳教育の全体計画との関連, 指導の内容及び時期等に配慮し, 両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

問 9 次の文は、「小学校学習指導要領」(平成 20 年 3 月)の「第 2 章 第 8 節 家庭 第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」における記述である。文中の ① ~ ③ に入る正しい語句の組合せを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

各内容の指導に当たっては、衣食住など ① の中の様々な言葉を ② を伴って理解する学習活動や、自分の ① における課題を解決するために言葉や ③ などを用いて ① をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

	①	②	③
ア	生活	実感	図表
イ	家庭生活	実感	事例
ウ	生活	実践	事例
エ	家庭生活	実践	図表

問10 『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 4 家庭との連携」における記述として正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 家庭や地域社会における身近な課題を取り上げて学習したり、学習した知識と技術を実際の生活で生かす場面を工夫したりするなどの指導が求められる。
- イ 自分の生活が家庭や社会と深くかかわっていることや自分が社会に貢献できる存在であることにも気付かせるようにする。
- ウ 家庭や地域社会と効果的に連携が図れる題材を必要に応じて設定するなど、学習した知識と技術を生活に活用できるよう配慮する。
- エ 家庭での実践の結果を発表するようにしたり、その成果を賞賛したりすることなどによって、家庭で実践する喜びや自信を育てるように配慮する。

問11 次の①～⑤の文は、『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成20年8月)の「第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 3 実習の指導」における記述である。①～⑤の文の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 米飯とみそ汁以外は題材を指定していないため、地域や学校、児童の実態に応じた多様な食品を用いることになる。
- ② 日常食の調理では、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。
- ③ 卵を用いる場合には、新鮮であることを確認し、加熱調理をするように指導する。
- ④ 児童が家庭から持参する場合は、実習の前に指導者が腐敗していないか匂いや色などを確かめたり、実習時間までの保管に十分留意したりする。
- ⑤ 地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心を持ち、その意義について理解できるようにする。

	①	②	③	④	⑤
ア	○	×	○	×	○
イ	×	○	×	×	○
ウ	○	×	○	○	×
エ	×	○	×	○	×

問12 次の表は、内閣府男女共同参画局が公開している「男女共同参画に関する国際的な指数」である。このうち、世界経済フォーラムが2017年に発表した男女間格差を示すジェンダー・ギャップ指数はどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア			イ			ウ			エ		
順位	国名	値	順位	国名	値	順位	国名	値	順位	国名	値
1	ノルウェー	0.949	1	ウクライナ	1.000	1	スイス	0.040	1	アイスランド	0.878
2	オーストラリア	0.939	1	フィンランド	1.000	2	デンマーク	0.041	2	ノルウェー	0.830
2	スイス	0.939	3	フィリピン	1.001	3	オランダ	0.044	3	フィンランド	0.823
4	ドイツ	0.926	3	タイ	1.001	4	スウェーデン	0.048	4	ルワンダ	0.822
5	デンマーク	0.925	5	スロベニア	1.003	5	アイスランド	0.051	5	スウェーデン	0.816
5	シンガポール	0.925	6	スウェーデン	0.997	6	ノルウェー	0.053	6	ニカラグア	0.814
7	オランダ	0.924	6	クロアチア	0.997	6	スロベニア	0.053	7	スロベニア	0.805
8	アイルランド	0.923	6	パナマ	0.997	8	フィンランド	0.056	8	アイルランド	0.794
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	日本	0.903	55	日本	0.970	21	日本	0.116	114	日本	0.657

(188 か国中)

(160 か国中)

(159 か国中)

(144 か国中)

問13 次の表は、内閣府が公表している「仕事と生活の調和推進のための行動指針(平成19年仕事と生活の調和推進官民トップ会議策定、平成28年一部改正)」の数値目標の一部である。表中の ~ に入る正しい数字の組合せを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

数値目標を定めたことから	現状値 ※平成28年時の直近の値	2020年目標値
週労働時間60時間以上の雇用者の割合	8.2%(平成27年)	<input type="text" value="①"/> %
年次有給休暇取得率	47.6%(平成26年)	<input type="text" value="②"/> %
第1子出産前後の女性の継続就業率	38.0%(平成17~21年)	<input type="text" value="③"/> %
男性の育児休業取得率	2.30%(平成26年)	<input type="text" value="④"/> %

	①	②	③	④
ア	5	70	55	13
イ	5	60	65	13
ウ	3	70	55	8
エ	3	60	65	8

問14 栄養素に関する記述として正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 人の体のたんぱく質をつくるアミノ酸は約25種類あり、そのうち体内で合成できない5種類を必須アミノ酸といい、食事で摂取する必要がある。
- イ 脂身の主な成分である中性脂肪は、グリセリンに脂肪酸が三つ結合している。
- ウ 水は、五大栄養素には含まれないが、人の体の約45%は水分で構成されており、生命維持のために必要な成分である。
- エ リンが多いとカルシウムの吸収率は低下するが、ビタミンCはカルシウムの吸収を促進する。

問15 食事計画に関する内容のうち「食事バランスガイド」の説明文として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 食品に含まれる主な成分を基準としていくつかの群に分け、それぞれの食品群について1日の必要量を示したもの。

イ 健康な人を対象として、年齢、性、身体活動レベル、妊婦、授乳婦の別に、エネルギーと各栄養素の1日の摂取量の基準を示したもの。

ウ 1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安を、主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の5つのグループで示したもの。

エ 日本人が日常摂取している食品の成分値を、可食部100g当たりで示したもの。

問16 調理実習において、キャベツ1人分90gを30人分準備する場合、購入重量はどれくらい必要か。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。ただし、キャベツの廃棄率は15%である。

ア 3.1 kg

イ 3.2 kg

ウ 3.5 kg

エ 3.8 kg

問17 衣服の表示のうち、家庭用品品質表示法に基づく表示には含まれないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 原産国表示

イ 取り扱い絵表示

ウ 組成表示

エ 性能表示

問18 次の①～⑤の文章は、繊維の特徴に関する記述である。①～⑤の文章と繊維名の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 保温性・吸湿性が大きく、しわになりにくい。水分を含んだ状態でもむと縮む。紫外線やアルカリに弱い。虫害を受けやすい。
- ② 吸湿性が小さく、静電気を帯びやすい。引っ張りや摩擦に強く、合成繊維の中では比較的熱に強い。しわになりにくい。
- ③ 光沢があり、熱で変形を固定することができる。吸湿性があり、婦人服や和装品に使用される。
- ④ 吸湿性・吸水性が大きく、洗濯にたえる。冷感があり、引っ張りに強いが伸びは小さい。熱に強いがしわになりやすい。
- ⑤ 保温性・弾力性がある。吸湿性が小さく、しわになりにくい。紫外線に強いが熱に弱い。セーターや毛布などに使用される。

	①	②	③	④	⑤
ア	毛	ナイロン	絹	綿	アクリル
イ	アクリル	ポリエステル	アセテート	綿	毛
ウ	アクリル	ナイロン	絹	麻	毛
エ	毛	ポリエステル	アセテート	麻	アクリル

問19 厚生労働省「平成 28 年度福祉行政報告例の概況」の「児童相談所における児童虐待相談の対応件数」の内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 被虐待者件数の年齢別の構成割合は、「0～2歳」が34.0%と最も多く、次いで「3～6歳」が25.6%、「7～12歳」が19.5%となっている。
- イ 相談の種別を見ると、「身体的虐待」が63,186件と最も多く、次いで「心理的虐待」が31,925件となっている。
- ウ 主な虐待者別構成割合をみると、「実母」が48.5%と最も多く、次いで「実父」が38.9%となっており、「実母」の構成割合は年々上昇している。
- エ 平成 28 年度中に児童相談所が対応した養護相談のうち児童虐待相談の対応件数は122,575件で、前年度に比べ19,289件(18.7%)増加しており、年々増加している。

問20 児童福祉法第7条に基づく児童福祉施設のうち「児童厚生施設」の説明文として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 乳児を除く保護者のいない子ども，虐待されている子ども，その他環境上養護を必要とする子どもたちを入所させて，養護するとともに社会的な自立に必要な支援を行う。
- イ 不良行為を行ったり，あるいは行うおそれのある子ども，または家庭環境などが適切でないために生活指導を要する子どもを入所または通所させ，個々の子どもの状況に合わせて指導を行うとともに，社会的自立を支援する。
- ウ 子どもに健全な遊びを与えて，その健康を増進し，又は情操をゆたかにすることを目的とする施設。児童遊園や児童館などがある。
- エ 軽度の情緒障がい(不登校，^{かんもく}緘黙，反抗・乱暴，夜尿など)をもつ子どもを短期間入所させるかあるいは通所させ，心理的安定と社会的な適応能力を回復させるための指導・援助を行うことにより症状の治療を行う。